広報 おおやまざき

1
2019（平成31）年

夜のまちを駆け抜ける黄色いTシャツの集団。ランニングをしながら地域を見守る「パトララン」の皆さんです。この地域に潜む危険に目を光らせつつも、笑顔でさわやかな汗を流しています。
（関連記事13ページ）

今月の主な内容

■新年のごあいさつ　P2
■Top Interview　前川光新町長　P4
■ファミリーサポートセンターを利用しませんか　P8
■役場の組織が変わりました　P9

vol.612
http://www.town.oyamazaki.kyoto.jp

年末年始の燃えるゴミの収集日程

	収集日程	収集内容
年末	12月31日㈪まで	平常どおり
年始	1月1日㈫～1月3日㈭	収集はありません
	1月4日㈮～	平常どおり

問＝経済環境課清掃環境係（内線246・247・248）
☎956-2101

新年あけまして おめでとうございます

―新年のごあいさつ―

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様には、ご家族そろって健やかに新年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

昨年12月に新町長として大山崎町政を担当することとなりました。これからの町政にあたって、皆様の温かいご理解・ご協力をいただきますよう、心からお願い申し上げます。

さて、今年の5月で、平成というひとつの時代が終わろうとしています。この三十年を振り返ると、皆様の心の中には様々な出来事が思い浮かばれることと存じます。大山崎町もインターチェンジが開通したり、隣町に西山天王山駅ができたことで宅地開発が進んだりと、取り巻く環境は大きく変わりました。

ただ、そのような中でも、守っていかなければならないものがあります。そのひとつが、小さなまちならではの強みともいえる地域コミュニティです。

私は、町長就任時に「住民参加型のまちづくり」を進めると皆様にお約束いたしました。主役はこの町に暮らす皆様です。コミュニティの希薄化が叫ばれる今だからこそ、道路や天王山、子育て問題など、まちの小さなことから皆様と顔を合わせてじっくりと何度でも話し合い、ともに大山崎町の未来を紡いでいきたいと思っております。まちづくりに参加していただくことを通じて、地域コミュニティがさらに密なものとなり、より豊かな暮らしにつながると信じております。

天王山に抱かれた自然と人の温かみに溢れるこの町は、先人の皆様方が築き上げてくださったものです。その歩みを大切にしつつ、新たな時代を切り開くべく、町長としてまい進して参りますので、町民の皆様の温かいご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、新しい一年が、皆さまにとって素晴らしい年となりますようお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

「住民参加型のまちづくり」でまちの未来を紡ぐ

大山崎町長　前川　光

謹んで新春をお祝い申し上げます。

町民の皆さまにおかれましては、お正月をご家族の方々と共に楽しくお過ごしになられたこととお喜び申し上げます。

また、日頃より皆さまから町議会にお寄せいただいておりますご支援・ご協力に心から感謝申しあげます。

さて、昨年10月には町長・町議会議員選挙がおこなわれ、新しい議会が発足し、私は11月の臨時議会での選挙により議長の重責を担わせていただくこととなりました。議長として初めての新春を迎えたところです。今後とも、微力ではありますが、町民の皆さまの民意に寄りそう議会運営をめざして全力を尽くす所存です。なお12月5日には新町政が誕生いたしております。

思い起こしますと、昨年は、6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨、9月の台風第21号、台風第24号と自然災害が続き、大山崎町も多大な被害を受けました。被災された皆さまには改めましてお見舞い申しあげます。

町民の代表としてさらなる成長を目指して

大山崎町議会議長　渋谷　進

大山崎町全体としても被災復旧にはいまだ道半ばの状況です。災害時の対応や災害後の復旧など今後どのように取り組んでいくか、大きな課題も明らかとなりました。

町議会としても災害対応を課題とした調査・研究にとりくんでいるところです。

また、12月5日、初登庁された前川新町長は町民参加、町民との対話を町政の大きな課題と表明されました。

町議会としても、町民の皆さまとの対話をどのように進めていくか、様々な角度から議論を続けているところです。これからも町民の皆さまの代表たるべき議会としてさらなる成長をめざして、議員一同、誠心誠意つとめてまいります。

結びに、今年も町民の皆さまからの一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年が皆さまにとりましてご多幸な年となりますよう、ご祈念申しあげまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

Top Interview

前川　光 新町長

平成30年10月21日日に行われた大山崎町長選挙で当選を果たし、同年12月5日水から新しい代表として町長に就任された前川光町長。

これから４年間、私たちのリーダーとして町を導く町長に、抱負や町政運営の展望などについてお話を伺いました。

「住民参加型のまちづくり」で身近な課題から町民の皆さんと話し合いたい

―就任にあたり、抱負を聞かせてください。

「住民参加型のまちづくり」を進めていくという決意を抱いています。時間はかかりますが、道路や天王山の再生問題など、身近なことを計画立案の時点から皆で話し合って決めていきたいと思っています。

―「住民参加型のまちづくり」は、どのように進めていきますか。

まずは、主に退職されている方など、時間的に余裕のあるシニア層を中心に参加していただき、まちづくりのシステムを構築していきます。その後、若い世代の方々にも参加していただき、幅広い世代の意見を取り入れていきたいと考えています。住民が主役で、町役場は縁の下の力持ち、という構図が理想ですね。

―なぜ町長になろうと思われたのですか。

もともと議員を20年間務めていたこともあり、まちづくりには興味がありました。今の大山崎町は、私の考える「住民参加型のまちづくり」から離れているように感じ、危機感を募らせていたために出馬しました。

―これまでの議員経験をどのように活かしていきますか。

初めて政治や行政の世界に身を投じる人よりも、一歩リードした位置に立っているはずです。その強みを活かして、スピード感を持って政策を進めていきたいと思います。

―施策についてお聞きします。まず、大山崎町立第2保育所の存続を堅持することについて、どのようにお考えですか。

町民の声に耳を傾けると、「第2保育所を存続してほしい。」との声がたくさん聞こえてきました。住民運動が起こるほどのことですから、その思いを受け入れ、じっくり時間をかけて、膝を突き合わせて話し合うべきだと感じました。私の考える「住民参加型のまちづくり」で、皆で意見を出しあって、存続の実現に向けて進めていくつもりです。

―大山崎中学校に給食を導入するにあたって、給食施設を自校式で実現することも公約に掲げておられます。

これまで、町は給食施設をセンター方式にする方針でしたが、私は、子ども達やまちのためにも自校式のほうが良いと考えています。まず、給食について、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくいただくことは食事の基本です。自校式であれば、できたてを提供することができます。加えて、アレルギーを持つ子どもたちにも柔軟に対応することができます。また、リスク回避についても考えておかなければなりません。万が一、食中毒が起こったとしても、被害はセンター方式より抑えられますし、災害時にも、各校に厨房があれば避難者の生活に役立つはずです。

就任してその日のうちに、自校式の実現のため、検討中であったセンター方式の給食施設については白紙に戻すよう指示しました。事業の中断は勇気の要ることですが、まちを良い方向へ導くために舵を切りました。

―子どもたちの未来を大切にされていますね。

子どもは町の宝です。０歳～15歳ま

小さな自治体だからこそ、個性の光るまちづくりを

での子どもが立派に育つシステムを整えていくつもりです。私の理想としては小中一貫教育で、9年間を通して教育プログラムを密にすることで、子ども達への柔軟な教育が実現するものと考えています。例えば、数ヶ月は海外でホームステイするカリキュラムを設けるなど、子どもの可能性が広がる選択肢を用意してあげたいですね。

教育が充実すると、それが町の特色となり、子育て世代の流入も見込めるのではないかと考えています。

—役場に「天王山対策課」を新しく設置されました。

昨年9月に上陸した台風21号で、天王山は見るも無残な状態になってしまいました。町が率先して元に戻すべきとの考えから、迅速に事業を進めるため「天王山対策課」を設置しました。

ありがたいことに、天王山にはボランティア活動をされている団体が多くおられますし、また、ボランティアに参加したいとの声を町民の方から頂戴することもあります。そのような方々をまとめ、活動していただけるように準備をする役目を町が担うつもりです。効率的に動くことで、今まで以上の天王山に生まれ変われると信じています。

町民の方や子どもたちなど、地域の人々にとって身近な天王山として育てていき、彼らが登山やボランティア活動などにより、「私たちの天王山だ」という意識を持ってもらえるといいですね。

ゆくゆくは、山の専門家にも意見を頂戴しながら、町民の皆さんで話し合い、理想的な天王山をつくりあげたいと思っています。私は、整備を進めて山を駆ける「天王山トレイルラン」を開催しては面白いのではないかと考えています。

—町長が感じる大山崎町の良さとは何でしょうか。

やはり大阪、京都の間に位置し、アクセスしやすい立地と、ほどよく田舎である環境でしょう。せっかくの立地をさらに良くするため、JR、阪急、川向こうの京阪をモノレールでつなぐのが、私の長年の夢です。三川を挟んだ八幡市とも交流を深めて生きたいと思っています。

また、小さな自治体だからこそ、独自の手法で生きる道があると思います。まちの経済などは近隣と連携しつつ、個性の光るまちづくりを進めていくことが重要です。

—反対に、大山崎町の課題は何だと感じますか。

先ほども申し上げたとおり、ほどよい田舎であることは大山崎町の強みですが、その割に、昔よりコミュニティの力が薄れていると感じます。若い世代が流入していますが、勤めていたり子育てで忙しい人も多く、コミュニティが形成されにくいのかもしれません。

まずは、比較的時間に余裕のあるシニア層の方を中心に、町が主催する小さなイベントなどを通してまちづくりに参加してもらうことで、人々につながりを生んでいこうと考えています。

例えば、町営農園などは、コミュニティづくりに適していると思います。淀川河川敷に貸し農園を整備して町民に利用していただく。そうすると、利用者同士でのコミュニティや、栽培方法などの講師と生徒の間でのコミュニティなど、様々な交流が生まれます。太陽のもと、適度な汗をかきながら作業することは、健康寿命を伸ばすことにもつながるのではないでしょうか。

—まちづくりに並々ならぬ思いを抱えておられますが、その気持ちはどこから来るものでしょうか。

きっかけは、自営業で喫茶店を経営していたときに加入した「JC（乙訓青年会議所）」です。地域貢献のため、商売や家庭以外の場で活躍する人々の姿が新鮮に映り、私も地域社会に積極的に関わるようになりました。

一種のターニングポイントですね。活動を通して行政や政治にも関わるようになったことが、今の職やまちづくりへの思いに繋がっています。

—プライベートについてお聞かせください。趣味は何ですか。

趣味は「まちづくり」です。どこへ行っても、何をしても、「これはまちづくりに活かせるのではないか。」と考えてしまいます。そうやって考えること自体が楽しいですし、年を重ねるにつれ、より多くの人の考えについて聞いてみたいと思うようになりました。

また、花や野菜を育てることに熱を注いでいて、毎年冬には種を買い、一から育てています。これがなかなか難しく、収穫まで育てられたためしがありません。結局、後から苗を買って育てるはめになってしまいますが、土いじりは無心になれるのでいい気分転換になりますね。

—最後に、座右の銘は何ですか。

「人の行く裏に道あり花の山」です。多くの人が行く場所よりも、だれも行かないようなところにこそ、満開の桜が咲いているものだ、という格言で、人とは違うことをすると良いことがあるということです。

大山崎町にも、他とは違うオリジナリティ溢れる施策をすすめ、新しい風を吹かせようという決意のもと、新町長としてまい進していきます。

—ありがとうございました。

人の行く裏に道あり花の山